

平成 27 年度  
年度計画の実施状況に係る  
自己点検評価書

平成 28 年 6 月

国立大学法人金沢大学

## 〈目 次〉

### 教育研究等の質の向上の状況

I. 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	1
1. 教育に関する目標	1
2. 研究に関する目標	18
3. その他の目標	24

### 業務運営・財務内容等の状況

II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標	39
III. 財務内容の改善に関する目標	45
IV. 自己点検・評価及び当該状況に係る情報提供に関する目標	49
V. その他の業務運営に関する重要目標	51

## 〈評価の判定基準〉

- IV : 年度計画を上回って実施している
- III : 年度計画を十分に実施している
- II : 年度計画を十分には実施していない
- I : 年度計画を実施していない

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 1 教育に関する目標  
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

【アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜等】

<学士課程>

中期目標	【1】多様な能力、資質、関心を持った意欲的な学生を発掘し、受け入れる。
------	-------------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【1-1】 各学類の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に応じた効果的な学生募集を展開するとともに、A0 入試・推薦入試等多様な入学者選抜方法を含めた現行の入学者選抜方法の見直しを進める。	① オープンキャンパス等の学生募集活動において入学者受入方針を周知するとともに、入学者受入方針に応じた効果的な学生募集を行う。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・オープンキャンパスや進学相談会等におけるAPの周知 ・これまでに志願者が多い地域、高校を対象とした学生募集活動の実施
	② 平成 26 年度までの入学者選抜方法及び入学者選抜結果を踏まえ、平成 30 年度入学者選抜方法を決定し公表する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成 26 年度までの結果を踏まえた、平成 30 年度入学者選抜における科目・配点等の決定及び Web サイトでの公表

<大学院課程>

中期 目標	【2】 社会的ニーズも踏まえながら，社会人・留学生を積極的に受け入れる。
----------	--------------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【2-1】</b> 各研究科・専攻のホームページの充実や大学院説明会等を通じて，各方面における入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）の認知度を高めるとともに，効果的な大学院生募集を展開し，社会人・留学生の入学者を増加させる。	① 社会人及び留学生の入学者の増加策並びに入学者受入方針の認知度に関する検証結果を踏まえ，社会人及び留学生の増加に向けた効果的な大学院生募集を展開する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・研究室訪問等の体験型進学説明会の実施 ・Web サイトにおける社会人・留学生向けの受験案内コンテンツの充実

【教育課程】

<学士課程・教養教育>

中期目標	【3】 学士教育の基盤となるべき知識・技能・教養とともに、より発展的で幅広い知識や現代的な教養を備えた人材を育成する。
------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【3-1】 コア・カリキュラム型の教養教育を進展させ、学士教育全体並びに各学域・学類の基盤となる科目を提供するとともに、幅広い知識や現代的な教養に関する科目を充実する。また、言語（日本語及び外国語）運用能力や情報リテラシーに優れた学生を育成するためのカリキュラムを開発する。さらに、国際感覚と倫理観を有する人間性豊かな人材を育成するため、金沢大学<グローバル>スタンダード（KUGS）を定め、共通教育における既存の1,100以上の科目全てを見直し、総合科目やテーマ別科目、一般科目を30のGS科目に集約する等、教育カリキュラムの再編に取り組む。	① 実施中の共通教育特設プログラムを検証し、平成28年度からの共通教育新カリキュラムにおける存続の可否について決定する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・実施中の共通教育特設プログラムの検証結果を踏まえた特設プログラムの再編
	② 共通教育において、言語運用能力や情報リテラシーを醸成するための教育を実践するとともに、金沢大学<グローバル>スタンダードに基づき、共通教育における既存の1,100以上の科目全てを見直し、総合科目やテーマ別科目、一般科目を30のGS科目に集約する等、教育カリキュラムの再編に取り組む。	Ⅳ	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・言語運用能力や情報リテラシーを醸成するための全学共通教育科目の実施 ・総合科目等を30のGS科目に再編 ・GS科目を柱とする新共通教育カリキュラムを構築
【3-2】 運営においては、科目の配当や体系、全学出動体制を発展的に見直し、金沢大学<グローバル>スタンダードに基づく教育の実践に向け、全学責任体制によるスーパーグローバル大学にふさわしい共通教育の実施体制として、国際基幹教育院の整備を進める。	① 共通教育において、これまでの教育実践及び種々の検討状況等を踏まえ、平成28年度から実施する新カリキュラムに対応した体制整備を行う。	Ⅳ	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・共通教育の実施主体となる国際基幹教育院の平成28年4月の創設決定 ・共通教育において平成28年度から実施する、新カリキュラムに対応し、国際基幹教育院の教員配置、運営体制等の整備

< 学士課程・専門教育 >

中期 目標	【4】 学域学類制の定着と実質化を推進し、専門分野における基礎的及び発展的能力と、現代の社会と自然に関する総合的見識とを備えた幅広い職業人を養成する。
----------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【4-1】 3学域・16学類の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）を定め、教育プログラムを策定することにより、専門性と学際性を育む複線型教育を行う。	① 学習成果の達成度自己評価データに基づき、教育プログラムを検証するとともに、必要に応じて改善する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・各学類における教育プログラムの検証結果を踏まえた能動的学習の充実
【4-2】 学域共通科目を整備し、学類の枠を越えた学域として共有すべき素養を涵養する。	① 各学域は、平成26年度に実施した学域共通科目の学習成果の達成度自己評価データに基づき、学域共通科目群の編成並びに各授業科目の内容及び教育方法を検証するとともに、必要に応じて改善を行う。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・学域共通科目の学修成果達成度自己評価データに基づく検証結果を踏まえた、インターシッ科目の充実、学域GS科目の編成
【4-3】 現代的課題の一である環境問題に関する見識を備えた人材を育成するため、学士課程（教養教育・専門教育）及び大学院博士前期課程に、それぞれの課程に応じた環境教育のプログラムを構築する。	① 共通教育において、既存のプログラムを発展的に見直し、平成28年度から実施する新カリキュラムにおける環境・ESDプログラムの科目を編成する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成28年度から実施するGS科目「環境学とESD」の構築

<大学院課程・博士前期課程及び修士課程>

中期 目標	【5】社会的ニーズの多様化に対応するために、専門性と学際性を備えた幅広い職業人の養成を行う。あわせて、区分制大学院においては博士後期課程の基礎的な教育を施す役割を担う。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【5-1】 各研究科の教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、それに応じた学位取得のための効果的な教育プログラムを提供する。それにより、教育を充実させ、学位の質を保証する。</p>	<p>① 学習成果達成度自己評価アンケートの結果に基づき、教育プログラムの検証を行い、必要に応じて改善する。</p>	III	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各研究科における、学習成果達成度自己評価アンケートの結果に基づく教育プログラムの検証</li> <li>・検証結果を踏まえた、英語化の推進等の教育プログラムの改善</li> </ul>

<大学院課程・博士後期課程及び博士課程>

中期 目標	【6】学際的視野とともに，専門分野における極めて高度の研究能力を有する研究者及び高度の専門的知識を備えた先端的職業人を養成する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【6-1】 各研究科の教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)を定め，それに応じた学位取得のための効果的な教育プログラムを提供する。それにより，学位取得率を一層向上させるとともに，学位の質を保証する。</p>	<p>① 大学院博士後期課程において，学位取得率について検証する。</p>	Ⅲ	<p>以下の検証を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院博士後期課程における，修了者データを用いた学位取得率等の検証</li> <li>・検証結果を踏まえた，指導体制の強化</li> </ul>



< 専門職大学院課程・法務研究科 >

中期 目標	【7】設置理念に従い、高度の専門知識及び専門技量を備え、幅広い法的問題に対処できる優秀な法曹を育成する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【7-1】 入学定員の削減と短縮コースの定員化について、入学者選抜における競争性確保という観点から検証する。また、修了者の質の保証という観点から、少人数教育を充実し、進級にあたり GPA による総合評価を行うとともに、より厳格な成績評価を実施する。</p>	<p>① 司法試験結果等から、修了生の質に関する検証を引き続き行い、必要に応じた改善策を実施する。</p>	III	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・司法試験結果や学業成績を踏まえた法学未修者に対する教育方策の改善</p>

【教育方法】

<学士課程>

中期 目標	【8】 各学域・学類の教育プログラムの下で、学生の主体的な学習意欲と学力を伸ばす教育を実践する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【8-1】 授業の目的に応じて授業形態を多様化し、少人数教育や TA（ティーチング・アシスタント）の活用を推進する。</p>	<p>① 学域・学類及び共通教育機構において、授業形態に応じたアクティブ・ラーニングを引き続き推進する。</p>	III	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学域・学類及び共通教育機構における、アクティブラーニング重点科目の選定等によるアクティブ・ラーニングの推進</li> </ul>
<p>【8-2】 アドバイス教員が学生の履修計画をアドバイスすることにより、学生が学域・学類の教育プログラムの下で体系的に学ぶことができるように、卒業に至るまで指導するシステムを拡充する。</p>	<p>① アドバイス教員制度の検証結果に基づき、必要に応じて改善策を実施する。</p>	III	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生に対するアンケート調査によるアドバイス教員制度の検証による現状の把握</li> </ul>
<p>【8-3】 学生の主体性を涵養するカリキュラム・教育方法・学修支援環境の統合的な改革の一環として、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を充実するとともに、アクティブ・ラーニング・アドバイザー制度を創設する。</p>	<p>① アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を充実するとともに、アクティブ・ラーニング・アドバイザー制度を創設する。</p>	IV	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アクティブ・ラーニング重点科目の選定等による、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の充実</li> <li>・アクティブ・ラーニング・アドバイザー制度の創設・運用</li> <li>・上記取組による教育効果の向上</li> </ul>

<大学院課程>

中期 目標	【9】学位取得のための効果的な教育プログラムの下で，社会人・留学生を含む個々の大学院生の研究課題に応じた教育を行う。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【9-1】 複数の指導教員により，個々の大学院生の研究課題に対応した履修指導を行う。	① 複数指導教員制度について全学的に引き続き検証し，必要に応じて改善する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・修了者に対するアンケート調査等による複数指導教員制度についての検証 ・検証結果に基づく制度の周知強化
【9-2】 社会人・留学生の大学院生を指導するための教育方法・授業方法の改善に取り組む。	① 社会人及び留学生の大学院生を指導するための教育方法・授業方法の改善策を引き続き実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・社会人の指導に適した開講日時の設定 ・留学生に対する英語を使った授業の拡大

【成績評価】

中期 目標	【10】 学士課程では、厳格な成績評価を行うことにより、各学類が付与し得る質の高い学士力(学力の達成度)を保証する。大学院課程では、厳格な成績評価を行うことにより、学位の質を保証する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【10-1】 学士課程では、各学類が付与し得る学力の目標を確立するとともに、それを各学類の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）として定め、それに基づいて成績評価を行う。</p>	<p>① 検証された成績評価基準に基づき、成績評価を実施する。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・ 学士課程における、成績評価基準に基づく、厳格な成績評価の実施</p>
<p>【10-2】 大学院課程では、各研究科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）を定め、それに基づいて成績評価を行う。</p>	<p>① 検証された成績評価基準及び学位論文審査基準に基づき、成績評価及び学位論文の審査を実施する。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・ 大学院課程における、成績評価基準に基づく厳格な成績評価及び学位論文審査基準に基づく厳格な学位論文審査の実施</p>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 1 教育に関する目標  
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

【教職員の配置】

中期目標	【11】 FD, SD を通じて教育能力, 教育支援能力の向上に努め, これらの能力を身に付けた教職員を適切に配置する。
------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【11-1】 ICT 教育推進担当の教職員が, ICT の特長を生かした教育サービスを全学的に提供する体制を整備する。	① これまでに構築した ICT 教育推進体制により, 全学的教育サービスを提供する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・アカンサスポータルを介した全学的教育サービス等の提供
【11-2】 教員の教育能力の向上を目的とする FD を定期的に開催する。また, 職員の教育支援能力の向上を目的とする SD を定期的に開催し, 関連する FD に職員も積極的に参加する体制を整える。	① 定期的に FD・SD 研修会を開催するとともに, FD・SD の中核となる教職員を養成するプログラムを実施する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・FD 研修会, SD 研修会, FD リーダー研修会の開催

【教育環境の整備】

中期 目標	【12】教育資源を効果的かつ効率的に活用する環境を充実・整備する。
----------	-----------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【12-1】 アカンサスポータル（学務や学習に関する情報を入手できる本学独自のワンストップサービスのサイト）を拡充することにより、多種の教育と多様な学生に対して、ICTの特長を生かした教育サービスを提供する。</p>	<p>① アカンサスポータルの機能を改善し、教育サービスを充実する。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アカンサスポータルの同報機能等の改善</li> </ul>
<p>【12-2】 次世代を担う優秀な大学院生に対し、総合性及び分野融合的視点を備えた研究者としての基礎力や国際性を醸成させるため、平成27年度に「新学術創成研究機構」を創設し、がん進展制御研究やバイオ・創薬分野などの本学に優位性のある研究分野を基に、若手研究者と大学院生を中心としたチームによるプロジェクト研究を推進する等、既存の教育組織及び教員組織の枠を超えた教育研究環境を整備する。</p>	<p>① 既存の教育組織及び教員組織の枠を超えた教育研究を行うため、新学術創成研究機構を創設する。また、次世代を担う優秀な大学院生に対し総合性及び分野融合的視点を備えた研究者としての基礎力や国際性を醸成させるため、同機構に高等教育部門を設ける。</p>	Ⅳ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学術創成研究機構の創設</li> <li>・同機構における研究部門・高等教育部門・研究支援部門の設置</li> <li>・高等教育部門を核とした複数の研究科との連携による大学院生に対する教育研究プログラムの実施</li> </ul>

【教育の質を改善するためのシステム】

中期 目標	【13】 教育の質を全学並びに各部局で検証・評価・改善するシステムを構築する。
----------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【13-1】 卒業時における学力の達成度を評価し、在学生の学力向上にフィードバックさせるシステムを開発する。</p>	<p>① 卒業時における学力の達成度を評価し、在学生の学力向上にフィードバックさせるシステムを運用する。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業時における学力の達成度を評価するための各種アンケートの分析</li> <li>・分析結果を踏まえた CAP 制等の教育体制の改善</li> </ul>
<p>【13-2】 学生及び大学院生による授業評価や教育効果・学習成果についての教員を対象とするアンケートを活用し、教員の教育能力の向上を支援するシステムを強化する。</p>	<p>① 構築した教員の教育能力の向上を支援するシステムを運用する。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教員に対する授業評価アンケート等の分析結果のフィードバック</li> </ul>
<p>【13-3】 学修の定量的評価を行うため、ポートフォリオの設計に着手する。</p>	<p>① 学修の定量的評価を行うため、ポートフォリオの設計に着手する。</p>	Ⅳ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新教務システムとの連携方法の検討等を含めたポートフォリオの設計を開始</li> <li>・ポートフォリオのプロトタイプを開発</li> </ul>

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 1 教育に関する目標  
 (3) 学生への支援に関する目標

【学生への学習支援，生活支援】

中期 目標	【14】 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」を実現するため，学生の学習を支援する制度及び学生の学習基盤である生活を支援する制度を整備する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【14-1】 学生に加えて，大学院生を対象とした奨学金制度を導入し，学長研究奨励費や海外語学研修制度と統合した新たな奨学・奨励制度を整備する。また，経済的理由で進学・修学が困難になった学生・大学院生に対する財政支援制度を導入する。	① 新たなニーズに応じた奨学・奨励制度を導入する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「大学院 GS プログラム」における奨学金給付制度等の導入
	② 経済的に困窮している学生及び大学院生に対する財政支援制度を引き続き実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・入学金免除及び授業料免除の実施
【14-2】 各学域・学類及び保健管理センター等が連携し，学生の学習・生活及び心のケアを含めた健康相談体制を拡充する。	① これまでに整備した学生相談体制による学生支援を引き続き実施し，さらに健康相談体制の充実を図る。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・保健管理センターにおける相談室の新設や留学生にも対応できる語学力に優れたカウンセラーの配置等による健康相談体制の充実
【14-3】 隔年実施している学生生活実態調査の分析等を踏まえながら，多様なニーズを持つ学生に対する適切な支援を行う。	① 学生生活実態調査を実施し，その結果に基づき，改善策が必要な事項に係る具体的な対応策等を取りまとめる。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成 27 年度金沢大学学生生活実態調査の実施結果を踏まえた学生生活委員会における改善・対応策の取りまとめ



【障がいのある学生に対する配慮】

中期 目標	【15】障がいのある学生の修学・生活支援体制を充実する。
----------	------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【15-1】 障がいのある学生及び障がいのある学生の支援に直接携わる教職員をサポートする全学的な体制を整備する。	① 障がいのある学生及び障がいのある学生の支援に直接携わる教職員をサポートするため、障がい学生支援室を設置する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・障がい学生支援室の設置及び障がいのある学生等に対するサポートの実施

【キャリア形成支援】

中期 目標	【16】安定した就職環境を作るために、学生及び大学院生へのキャリア形成支援を大学教育の一環として位置付け、キャリア教育・就職支援体制を整備する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【16-1】 キャリア教育を強化するとともに、学生及び大学院生の就職支援体制を更に充実させるため、就職支援室を改組・拡充する。	① これまでのキャリア教育の実践を踏まえ、更なるキャリア教育の強化に向けた取組を推進する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成 28 年度のキャリア教育科目として新開講科目の決定 ・業界別インターンシッププログラムの実施
	② 就職支援室において、就職支援に係る取組を引き続き実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・キャリア教育の充実 ・就職支援室と学類が連携した就職ガイダンス等の実施

【外国人留学生の受入れ及び支援】

中期 目標	【17】外国人留学生の受入れを全学的に推進するとともに、外国人留学生の教育と生活に関する支援を推進する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【17-1】 協定校との交流や多様な留学プログラム等、外国人留学生の受入計画を立案・実行するとともに、外国人留学生の日本語学習支援、生活支援及びキャリア形成支援を充実する。	① 重点交流協定校等との留学生交流プログラムを充実し、可能なプログラムから実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・エジンバラ大学等、重点交流協定校との新たな留学生受入プログラムの構築
	② 外国人留学生の日本語学習支援、生活支援及びキャリア形成支援の充実を図る。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「総合日本語」プログラムの内容充実による、外国人留学生の日本語学習支援の充実 ・「国際交流アドバイザー」制度の整備等による、外国人留学生の生活支援の充実 ・留学生ホームカミングデイにおける OB・OGとの個別相談会の実施等による、外国人留学生のキャリア形成支援の充実

- I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 研究に関する目標  
 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

中期 目標	【18】世界に通用する高度な学術研究を推進し、卓越した研究成果と将来性のある研究を産み出す先進的研究拠点を目指すとともに、特色ある研究拠点を形成する。
----------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【18-1】 各研究域、がん進展制御研究所及び研究を主たる業務とするセンターは、第一期中期目標・中期計画期間中に実施された各種の評価の結果を踏まえ、世界に通用する高度な学術研究を組織的に推進する。	① 選定した学術研究や共同利用・共同研究拠点としての研究等を組織的に推進する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「戦略的研究推進プログラム」等による組織的な研究の推進
【18-2】 各研究域に、先進的研究拠点の中核としての研究センターを時限付きで設置する。	① 研究域附属研究センターにおける研究プロジェクトを引き続き推進するとともに、研究域附属研究センターの評価を実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・研究域附属研究センターにおける新たな研究プロジェクトの立ち上げなど、各センターにおける研究プロジェクトの推進 ・理工研究域バイオ AFM 先端研究センターの中間評価の実施
【18-3】 少数の研究者で構成され、所属組織にとらわれない研究プロジェクトチームを立ち上げ、先進的研究拠点のシーズを形成する。	① これまでに育成した分野融合型研究チームの成果を基に、新たに分野融合型研究拠点を創設する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・これまでに育成した分野融合型研究チームの成果を基にした研究ユニットを中核とする新学術創成研究機構の創設
【18-4】 能登半島を中心とした総合的・多角的な地域研究を推進し、特色ある地域研究の拠点を形成する。	① 能登半島を中心とした総合的・多角的な地域研究を推進するとともに、地域研究拠点の活動状況を検証する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・能登の里山里海研究等の地域研究の推進 ・COC 本部における地域研究拠点の活動状況の検証

<p>【18-5】 科学研究費補助金の年間採択件数について、中期計画開始時比で実質 10%程度の増加を目指し、その方策を検討し実施するとともに、その他の競争的研究資金の採択件数を増加させる。</p>	<p>① 科研費等の競争的研究資金獲得支援方策を組織的に実施するとともに、これまでの取組の効果を検証する。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・科研費アドバイザー等による獲得支援の実施 ・科研費等の採択状況を踏まえた、これまでの取組に係る検証の実施</p>
<p>【18-6】 学術論文数・学術書の出版件数を増加させる。</p>	<p>① 人文社会科学系学術図書出版助成を引き続き実施する。また、本学における近年の学術論文数及び学術書の出版件数の増加について検証する。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・戦略的研究推進プログラム「人文社会科学系図書出版助成」の実施 ・研究域・がん進展制御研究所における学術論文数等、第2期中期目標期間の研究成果に係る検証の実施</p>
<p>【18-7】 研究体制強化のための環境を整備し、共同研究、受託研究の件数を増加させる。</p>	<p>① 共同研究及び受託研究の件数を増加させるための方策を引き続き実施するとともに、これまでの成果を検証し、先端科学・イノベーション推進機構内の組織整備を行う。</p>	<p>Ⅲ</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・企業等との連携プログラムの確立等の方策の実施 ・共同研究及び受託研究の増加に向けた取組の検証 ・先端科学・イノベーション推進機構における業務グループの統合や産学連携コーディネータの配置</p>

中期 目標	【19】 地域と世界に開かれた先進的研究拠点として特色ある研究の成果を社会に還元する。
----------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【19-1】 発明届出件数，特許実施許諾件数，研究成果出版件数を増加させることにより，研究成果を社会に還元する。	① 知的財産啓発活動を引き続き行う。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・知財啓発セミナーの実施 ・研究室個別訪問等によるシーズ発掘等の実施

- I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 2 研究に関する目標  
 (2) 研究実施体制等に関する目標

中期目標	【20】優れた人材が参集する大学を目指し、優秀な人材の確保と育成を推進する。
------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【20-1】 優秀な若手人材の確保と育成のための仕組みを構築する。	① テニュア・トラック制度及び URA による競争的研究資金獲得支援を引き続き実施するとともに、リサーチプロフェッサー（若手型）制度により、優秀な若手人材を確保・育成する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・テニュア・トラック制度，リサーチプロフェッサー制度による若手人材の採用 ・URA による若手研究者の競争的研究資金獲得支援
【20-2】 海外に若手研究者を派遣する制度を構築し、国際性豊かな人材を育成する。	① 海外の大学等との若手研究者を中心とした研究交流を推進する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・戦略的研究推進プログラム（海外連携支援）等による、若手研究者の海外との研究交流を支援
【20-3】 国際的に卓越した研究者等から成る研究アドバイザリーボードを設置し、研究に関する評価と助言を得る。	① アドバイザリーボードによる評価と助言を踏まえた取組の状況を検証する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・各研究域，がん進展制御研究所におけるアドバイザリーボードによる評価と助言を踏まえた第2期中期目標期間中の研究展開に関する検証の実施
【20-4】 優秀な女性研究者の確保と育成のための研究環境の整備及び制度の構築を行う。	① 優秀な女性研究者を確保・育成するための施策を実施する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・若手女性研究者(博士研究員)・高度技術専門職員 (Skilled Specialist) の雇用 ・研究パートナー制度の運用

<p>【20-5】 大学全体の研究力強化を図るため、優れた研究力を有する教員が研究に専念できるリサーチプロフェッサー制度を導入する。</p>	<p>① リサーチプロフェッサー制度により、優れた研究力を有する教員を確保するとともに、研究に専念できる環境を整備する。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・リサーチプロフェッサー制度による教員の採用 ・リサーチプロフェッサーに対する研究支援の実施 ・リサーチプロフェッサーを中心とする研究グループにおける研究の進展</p>
<p>【20-6】 がん進展制御研究やバイオ・創薬分野など、本学に優位性のある研究分野を基に、平成 27 年度に、新たな先進的研究拠点として「新学術創成研究機構」を創設する。 また、同機構内に「研究コア」を設け、学長のリーダーシップの下、戦略的かつ重点的な資源配分により、世界一線級の研究者をリサーチプロフェッサーとして招へいするとともに、リサーチアドミニストレーター（URA）を配置し、分野融合型の研究を推進する。</p>	<p>① 新学術創成研究機構を創設し、同機構に本学に優位性のある研究分野から成る複数の研究コアを設けるとともに、戦略的な資源配分や URA による研究支援を行い、分野融合型研究を推進する。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・3 つの研究コアを配した新学術創成研究機構の創設 ・各研究コアへの若手主任研究者等の配置，研究資金の配分等による分野融合型研究の進展</p>



中期 目標	【21】 研究スペースの最適化を図り，世界的な研究拠点となる上で必要な研究設備及び学術情報基盤を計画的に整備する。
----------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【21-1】</b> 全学共用研究スペースを確保し，必要などころへの重点的配分を推進するため，全学共用研究スペースの確保・配分を調整する権限を付与した組織を設立する。	① 全学共用研究スペースの重点的配分を推進する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・全学共用教育研究棟における共用研究スペースの運用
<b>【21-2】</b> 設備整備に関するマスタープランに基づき，学術研究・技術開発に必要な研究設備を計画的に整備する。	① 設備整備に関するマスタープランに基づき，研究設備を整備する。また，第2期中期目標・中期計画期間における設備整備の進捗状況を検証する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・設備整備マスタープランに基づく「放射線モニタリングシステム」等の研究設備の整備 ・第2期中期目標期間における設備整備状況や成果，課題等の検証
<b>【21-3】</b> 学術研究に必要な学術情報基盤を整備するとともに，「金沢大学学術情報リポジトリ（KURA）」の拡充により本学の研究成果を国内外に発信するなど，研究支援機能を強化する。	① 学術情報リポジトリ（KURA）のコンテンツを充実する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・学術情報リポジトリ（KURA）への2,751件の新たなコンテンツの登録

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 その他の目標  
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期目標	【22】 地域における新産業・新事業の創出に寄与するとともに、地域の抱える問題解決に貢献する。
------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【22-1】</b> 産業界、行政機関及び地域の大学と一体となり産学官連携活動を強化する。	① 産学官連携活動を継続するとともに、これまでの成果について検証する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・先端科学・イノベーション推進機構協力会を通じた、産学官連携活動の継続実施 ・第2期中期目標期間における共同研究、受託研究契約数の推移を踏まえた、産学官連携活動に係るこれまでの成果の検証
<b>【22-2】</b> イノベーション創出に関する活動を通して獲得した種々の情報を学内外へフィードバックし、新たな地域ニーズに対応できる仕組みを構築する。	① 新たな地域ニーズに対応する仕組みを運用する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・COC 事業における地域ニーズと研究シーズとのマッチングを図る仕組みの運用

中期目標	【23】 社会と連携し、グローバルとローカルな視点から教育・研究を推進するとともに、地域社会の課題解決及び活性化に貢献する。
------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【23-1】</b> 自治体や民間組織等との連携事業，その他本学の研究成果を活用した事業の展開を通じて，地域の活性化及び地域再生に貢献する。	① これまでに実施した地域社会の課題解決及び活性化並びに地域再生に係る事業について，効果を検証する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・能登キャンパス構想推進事業や「能登里山里海マイスター」育成事業等について，各自自治体の有する統計データ等を基に効果を検証
	② 平成 26 年度に設置した「幹細胞代謝学講座」，「先進的地域医療研究講座」の寄附講座を中心に，地域医療の充実を図る。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「幹細胞代謝学講座」，「先進的地域医療研究講座」の寄附講座を中心とした，地域医療に係る教育・研究の実施
	③ 「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築」を代表校として先導し，連携校等とともに本事業に係る取組を実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システム」における各種プロジェクトを代表校として推進
<b>【23-2】</b> ユネスコ・スクール及び初等中等教育における持続可能な開発のための教育（ESD）を支援する。	① 「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」を着実に推進するとともに，ユネスコ・スクール及び初等中等教育における持続可能な開発のための教育（ESD）を支援する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「グローバル人材の育成に向けた ESD の推進事業」を着実に推進 ・ユネスコ・スクールにおける ESD 研修や交流会開催等の支援 ・北陸地域の小学校等における ESD 研修の支援

<p><b>【23-3】</b>  地域を志向した教育・研究を推進するため、地域コミュニティの中核的存在として、地域の感性を備えた人材育成を目指した教育カリキュラムの改革に着手するとともに、地域と協働し、地域の課題解決、地域振興等に係る取組を組織的に推進する。</p>	<p>①  地域の感性を備えた人材を育て社会に繋ぐ「地（知）」の拠点を形成するための取組を推進する。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必須科目「地域概論」を4学類で試行導入</li> <li>・自治体と連携した地域ニーズ・研究シーズの抽出及びマッチングの実施</li> <li>・公開講座の実施</li> <li>・連携協定の締結等による自治体等との連携強化</li> </ul>
--	--	-----------	--

中期 目標	【24】 地域の高等教育研究機関が連携する事業を基幹校として主導する。
----------	-------------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【24-1】 県内高等教育機関及び石川県等が連携する「大学コンソーシアム石川」の中核を担う「いしかわシティカレッジ事業」に積極的に参画・主導し、本学の人材・知的財産等を活用して、その教育プログラム等の充実やICT化等の整備拡充を支援する。</p>	<p>① 平成26年度にスタートした教育プログラム「学都いしかわグローバル人材育成プログラム」を軌道に乗せるとともに、機能拡充した「大学コンソーシアム石川」のポータルサイトの積極的な活用に向けたサポートを行う。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学都いしかわグローバル人材育成プログラム」の主導</li> <li>・「大学コンソーシアム石川」のポータルサイトに係る教職員向け説明会の支援</li> </ul>

中期 目標	【25】 研究の活性化・社会貢献に資するため、大学が所有する知的資源をデータベース化するとともに積極的に活用する。
----------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【25-1】 本学の知的資源を収集・保存・公開し、共同研究・学際研究の推進、産学官連携、公開講座、研修会等に役立てる。</p>	<p>① これまでの取組について評価するとともに、本学の知的資源に係る情報を共同研究・学際研究の推進、産学官連携等に活用する。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第2期中期目標期間におけるデータベースを用いた知的資源の収集、保存、公開や活用についての分析</li> <li>・ 本学のシーズ集（冊子）の作成及び企業訪問・シーズ紹介等への活用</li> </ul>

中期 目標	【26】住民，国民の健康増進に貢献する。
----------	----------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【26-1】 「健康増進科学センター」を活用し，地域住民の健康増進のための活動を推進する。	① 地域住民の健康増進を図るため，健康増進に関する活動を継続的に実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・地域高齢者を対象としたウォーキング教室等の開催

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 その他の目標  
 (2) 国際化に関する目標

中期目標 【27】 徹底した「大学改革」と「国際化」を全学的に行い、国際通用性の高い人材を育成するための学士教育及び大学院教育を実施することにより、教育の国際競争力を高める。

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【27-1】 教育の国際競争力の強化及び外国人留学生の受入増加に対応するため、授業形態の多様化及び教育内容を充実する。	① ジョイントクラスとして開講する科目の増加及び教育効果の向上に向けた取組を推進する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・新たに文化体験科目等をジョイントクラスとして開講 ・留学生の要望に基づく日本語使用割合の増加による教育効果の向上
	② 外国語による授業等について、これまでに検討した改善策を実施する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・複数の教員による外国語授業の合同開講の実施 ・教員採用時における英語教授能力の評価
【27-2】 学生の海外留学増加に向けた施策を講じる。	① 交流協定校の拡大等、学生の留学を支援する施策を講じ、海外留学を推進する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・ASEAN+3 大学ネットワークへの加盟や国立六大学国際連携機構とオランダ高等教育国際協力機構の協定締結などによる交流協定校の拡大 ・奨学金による経済的支援、留学に必要な語学力向上のための支援の実施
	② 学生の海外留学増加に向けた取組の効果を検証する。	III	以下の検証を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・学生の海外留学者数の推移及び留学に向けた研修会参加者数等を踏まえた、学生の海外留学増加に向けた取組の効果を検証



<p>【27-3】 我が国のグローバル化を牽引するため、スーパーグローバル大学創成支援「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」事業において、これまでのグローバル化に係る取組の実績を基に、更に先導的な取組に挑戦する。特に、金沢大学&lt;グローバル&gt;スタンダード (KUGS) に基づく教育の実践に向け、共通教育における既存の 1,100 以上の科目全てを見直し、総合科目やテーマ別科目、一般科目を 30 の GS 科目に集約する等、教育カリキュラムの再編に取り組むとともに、これまでの共通教育の実施体制を抜本的に見直し、その実施主体となる国際基幹教育院の整備を進める。また、研究力の強化により国際競争力を高めるため、リサーチプロフェッサー制度を導入し、30 名程度を配置する。</p>	<p>① スーパーグローバル大学創成支援「徹底した国際化による、グローバル社会を牽引する人材育成と金沢大学ブランドの確立」事業において、先導的な取組に挑戦する。</p>	IV	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーグローバル ELP センターを設置し、学生・教員・職員それぞれの特性に応じた英語研修プログラムの提供</li> <li>・同プログラム研修受講者による英語による授業の実施</li> </ul>
	<p>② 金沢大学&lt;グローバル&gt;スタンダード (KUGS) に基づく教育実践に向け、共通教育における既存の科目全てを見直し、総合科目やテーマ別科目、一般科目を 30 の GS 科目に集約する等、教育カリキュラムの再編準備に取り組む。</p>	IV	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合科目等を 30 の GS 科目に再編</li> <li>・同科目を柱とする新共通教育カリキュラムの構築・GS 科目に係る教材開発、担当教員の配置、時間割の作成等、平成 28 年度開講に向けた準備の実施</li> </ul>
	<p>③ これまでの共通教育の実施体制を見直し、その実施主体となる国際基幹教育院の整備を進める。</p>	IV	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通教育の実施主体となる国際基幹教育院の平成 28 年 4 月の創設決定</li> <li>・新しい基幹教育（共通教育）を創造する責任部局となる国際基幹教育院における関係規程や教員配置等の体制を整備</li> </ul>
	<p>④ リサーチプロフェッサー制度を運用し、30 名程度を配置する。</p>	IV	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・37 名のリサーチプロフェッサーを配置</li> </ul>

中期 目標	【28】国際機構を中心とし、大学の国際化を推進する。
----------	----------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【28-1】 国際公募の実施を含め外国人教員増加のための学内体制を整備する。	① 外国人教員の職務及び生活を適切にサポートするため、学内規程や関係事務文書等の英語表記を進める。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・国際機構支援室を中心に、事務文書等の英語化、学内通知文書の英語併記を実施
	② 教員の公募に際し、引き続き可能なものについて国際公募を実施するとともに、国際公募の実績を調査する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・積極的な国際公募の実施 ・各部署等における第2期中期目標期間中の国際公募の実績を調査・分析
【28-2】 国際交流のための情報発信や窓口となる海外分室（リエゾン・オフィス）を整備・拡充し、教育・研究の国際展開を支援する。	① 海外分室を現地入試の場や海外調査研究の拠点として活用する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・現地入試や留学生募集、共同研究の拠点として海外分室を活用
【28-3】 教育・研究の海外の拠点となる重点交流協定校を含め、海外の大学・研究機関との国際的に共同した教育・研究を推進するとともに、海外との学生交流・学術交流を強化する。また、平成27年度に創設する「新学術創成研究機構」において、国際的学術コミュニティとのネットワークを強化し、世界一線級の研究者をリサーチプロフェッサーとして招へいするとともに、研究者等の海外派遣を行うなど、国際頭脳循環による人材育成を推進する。	① 海外の大学等と共同し教育・研究等の交流を推進するとともに、交流の状況を調査する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・海外の大学等と共同した種々の教育・研究交流を実施 ・第2期中期目標期間における海外の大学等との交流実績等を調査・分析
	② 新学術創成研究機構を創設し、同機構において、国際的学術コミュニティとのネットワークを強化し、世界一線級の研究者をリサーチプロフェッサーとして招へいするとともに、研究者等の海外派遣を行うなど、国際頭脳循環による人材育成を推進する。	Ⅳ	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・新学術創成研究機構の創設 ・同機構におけるリサーチプロフェッサーの招へい、若手研究者の海外派遣を実施 ・上記の取組による分野融合型研究の進展

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 その他の目標  
 (3) 附属病院に関する目標

中期目標 【29】 地域医療を充実させるために指導的な立場を担う。

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【29-1】 附属病院が中心となり地域連携クリニカルパス，並びに疾患ごとのクリニカルパスを構築し運用する。	① 地域連携クリニカルパス及び疾患ごとのクリニカルパスの運用状況を調査分析する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・地域連携クリニカルパス等の運用状況等について調査・分析し，課題や対策の取りまとめを実施
【29-2】 地域医療に関する医学教育を充実させる。	① 地域医療教育センターを中心に，医学類特別枠学生を対象に，地域医療実習，キャリア形成相談等を行うとともに，これまでの取組を分析する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・医学類特別枠学生を対象とする夏季研修・冬季研修，地域医療実習等を実施 ・第2期中期目標期間における地域医療に関する医学教育に係る取組状況について，アンケートを基に分析の上，効果と課題の取りまとめを実施

中期 目標	【30】 本学の特徴である医薬保健学域の機能を活用し、チーム医療を実現するための教育体制を構築する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【30-1】 医師、コ・メディカル等の医療人を横断する安全教育及び専門教育を実施する。	① 医療安全管理部、院内感染対策チーム、糖尿病医療チーム、栄養サポートチーム等が主体となり、安全教育及び専門教育を実施するとともに、これまでの取組を分析する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・医療安全管理部等において、種々の安全・専門教育を実施 ・インシデントレポート提出件数の推移等による間接的評価を実施
【30-2】 卒前教育と卒後教育の一体的な魅力ある教育プログラムを構築する。	① 卒前教育と卒後教育の一体的な魅力ある教育プログラムを継続する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・早期から現場を体験するアーリー・エクスポージャーや、外国人患者を想定した英語による医療面接トレーニング、研修医の海外派遣と帰国後の報告会等の卒前教育と卒後教育の一体的なプログラムの継続的実施

中期 目標	【31】橋渡し研究（トランスレーショナルリサーチ），臨床研究を積極的に推進する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【31-1】 橋渡し研究（トランスレーショナルリサーチ）を充実させ，先進医療の提供につなげる。	① 分子イメージング手法を利用した臨床研究展開を図るとともに，学内シーズを応用した金沢大学発の分子イメージング手法の開発を推進する。また，再生医療及びトランスレーショナルリサーチセンターを利用したがん免疫治療開発を推進する。	IV	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。  ・分子イメージング手法を利用した臨床研究を先進医療として開始

中期 目標	【32】医療の質を担保し，先進医療を支える病院マネジメントを推進する。
----------	-------------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【32-1】 医療スタッフを確保するため，キャリアシステムを構築する。	① これまでに構築・運用したキャリアシステム及び医療スタッフ確保について検証する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・医療スタッフの資格取得状況等を踏まえた，キャリアシステム及び医療スタッフ確保の検証

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標  
 3 その他の目標  
 (4) 附属学校に関する目標

中期目標 【33】 国立大学附属学校の存在意義をより鮮明にして、教育を巡る今日的課題を掘り起こし、その克服のための先導的・実験的教育実践及び先導的・実験的教育研究を推進する。

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【33-1】 幼・小・中・高・特別支援を擁する附属学校園としての利点を生かし、教育の今日的課題へのアプローチをテーマにした実証的教育研究を推進する。	① 学校教育学類との連携による実証的教育研究を推進する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・学校教育学類と附属学校園の全教員が13の小委員会に分かれ、それぞれ設定したテーマに即した実証的教育研究を推進 ・附属学校園と学校教育学類が連携し、各学校園で公開研究会を開催
【33-2】 附属学校園及び学校教育学類が一体となって、21世紀教育を牽引していく担い手を育成する体制を整備・充実する。	① 附属小学校において、学級編制の適正化を実施するとともに、附属幼稚園において、平成28年度の学級編制適正化に向けた準備を行う。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・附属小学校の学級定員を変更 ・附属幼稚園における平成28年度からの学級定員の変更を決定
	② 教育実習の諸課題に係る改善状況について点検する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・教育実習運営委員会を中心に、教育実習の諸課題に係る改善状況について点検の上、課題を抽出し改善策を実施
【33-3】 地域の教育界との連携協力のより望ましい在り方を模索しながら、人事交流・研修協力・研究協力等を通して「教育モデル校」として、地域の教員の資質・能力の向上、教育活動を推進する。	① 石川県教育委員会等と連携しつつ、「教育モデル校」としての研究活動を推進し、その成果を発信する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「教育モデル校」として、附属5校園全てで公開研究会を開催
	② 「教育モデル校」として取り組んだ教育研究活動について、教育研究発表会の参加者から聴取した意見を基に、今後の活動改善に向けた分析を行う。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・教育研究発表会の参加者に対するアンケートの実施

			・アンケート結果を踏まえ、各校園で今後の活動改善に向けた分析を実施
【33-4】 スーパーグローバルハイスクールとして、シームレスな高大連携により、イノベーションで世界を変えるグローバル・リーダーを育成するための一貫した課題研究カリキュラムを開発する。	① スーパーグローバルハイスクールとして、イノベーションで世界を変えるグローバル・リーダーを育成するための教育カリキュラムを試行的に実践しつつ、カリキュラムの開発を行う。	IV	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・「地域課題研究」「異文化研究」「グローバル提案」の3つの課題研究を实践 ・3つの課題研究を核とする「総合的な学習」のカリキュラム開発 ・先駆的な取組による質の高い研究成果の積極的な発信



II 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
1 組織運営の改善に関する目標

中期目標	【34】 教育研究組織の見直しを進めるとともに、戦略的な人員配置を行い、効果的・機動的な運営体制を確立し運用する。
------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【34-1】 平成 20 年度において教員養成系を含めて入学定員や組織について見直し改組した学域・研究域、及び大学院については、活動・運営に関する適正な評価を行い、必要に応じて入学定員の見直しや組織等についての改組及びそれに伴う戦略的な人員配置を行う。	① 大学戦略枠を用いて、必要に応じて常勤教員を配置する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・大学戦略枠（全学戦略分）を用いて、がん進展制御研究所等へ6人の常勤教員を配置
	② ミッションの再定義等を踏まえ、組織見直しに取り組む。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・教職大学院の創設の決定等、ミッションの再定義等を踏まえた組織の見直しの実施
【34-2】 教育・研究に携わるセンター等については、活動・運営について適正な評価を行い、その使命や目的に応じた改組・新規設置等及びそれに伴う戦略的な人員配置を行う。	① これまでの検討結果等を踏まえ、センターの位置付けを見直す。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・大学教育開発・支援センター及び外国語教育研究センターを国際基幹教育院へ統合
【34-3】 がん進展制御研究所は共同研究を推進し、共同研究拠点を目指す。	① がん進展制御研究所において、更なる研究の進展を目指し、新学術創成研究機構と連携した研究を推進する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・がん進展制御研究所と新学術創成研究機構に設けたがん進展制御研究コアとの連携による研究の実施

<p>【34-4】          本学，千葉大学及び長崎大学の有する強み・特色を活かし，健康・医療・環境に関する地球規模の課題を解決に導く人間性豊かな人材の育成・輩出を担う共同大学院の設置を目指し，教育研究環境を整備する。</p>	<p>①          共同大学院である「先進予防医学研究科」について，平成28年度の設置に向けた準備を行う。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。          ・共同大学院（先進予防医学研究科先進予防医学共同専攻）の創設決定          ・同共同大学院の開設に向けた，共同教育プログラムに活用するeラーニング関係教材の整備          ・先進予防医学研究センターの創設決定          ・3大学による先進予防医学共同研究センターの創設決定</p>
<p>【34-5】          本学の強みを活かした分野融合型の研究を推進するとともに若手研究人材の育成を図るため，学長のリーダーシップの下，戦略的かつ重点的な資源の再配分により，分野融合型新研究科の創設やがん進展制御研究所の機能強化に向けた制度設計を行う。</p>	<p>①          分野融合型新研究科の創設やがん進展制御研究所の機能強化に向け，新学術創成研究機構を創設する。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。          ・がん進展制御研究コアを含む3つのコアを有する研究部門，高度研究人材の育成や分野融合型研究科における教育プログラムの礎となるプロジェクト事業の企画・実行を担う高等教育部門，機構の研究者の支援を行う研究支援部門からなる新学術創成研究機構の設置          ・北陸先端科学技術大学院大学との共同大学院設置に向けた制度設計</p>

中期 目標	【35】多様な才能を備えた人材を集め、教職員各人が組織的な教育研究力を高めるとともに、有する潜在的能力を発揮し、主体的にやる気を促すことができる体制を構築する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【35-1】 教員について、弾力的な勤務形態を導入するため、キャリアパス制度を整備する。	① リサーチプロフェッサー制度を運用するとともに、2トラック選択制をはじめとする諸制度の本格的な導入に向けて検討を開始する。	IV	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・リサーチプロフェッサー制度による常勤教員の登用 ・2トラック選択制の在り方に関する検討の着手 ・コンカレント・アポイントメント制度の導入・適用
【35-2】 事務職員について、国立大学法人等職員採用試験のほか、語学や情報処理等専門的知識や技術・経験を有する人材確保のため、柔軟な選考方法を導入する。	① 専門性を有する職員の柔軟な選考・採用を引き続き行う。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・高い語学力を有する職員及び診療情報管理士の採用の実施
【35-3】 ICTを活用した教職員の自主的な研修を支援するための環境を整備する。	① 全学ポータル等を活用した自主的研修に関するコンテンツについて、更なる充実を図る。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・自主的に閲覧可能となるような研修コンテンツの作成・公開
【35-4】 教員の資質能力を向上させるため、個々の教員が自己点検・自己評価を行うとともに、教員評価制度を用いて評価を行う。	① 教員評価結果の活用を見据え、教員評価制度の改善に取り組む。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・評価結果を給与処遇に反映する教員評価制度を構築
【35-5】 教員の教育研究能力の向上に資するため、サバティカル制度等を整備し、活用する。	① サバティカル制度について検証するとともに、必要に応じて更なる改善を行う。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成26年度実施状況を踏まえ、サバティカル研修制度を検証し、実施スケジュールを改善 ・サバティカル研修成果報告会による研修の効果の確認

<p><b>【35-6】</b>          教育改革・研究力強化の実現に向けた教員人事制度改革の一環として、優秀な人材を確保し教育研究活動を活性化するため、人事・給与システムの弾力化に取り組む。特に、年俸制については、退職金にかかる運営費交付金の積算対象となる教員に対し、業績評価を前提とした制度を導入し、年俸制導入等に関する計画に基づき促進する。</p>	<p>①          新たに導入した年俸制について、適切に運用し、制度の定着を図る。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。          ・年俸制の周知，適用移行希望者の確認の実施          ・リサーチプロフェッサーを中心とした新規採用者への適用          ・年俸制適用者の目標確認          ・コンカレントアポイントメント制度の導入等，人事制度改革の実施</p>
<p><b>【35-7】</b>          若手教員の雇用に関する計画に基づき、退職金に係る運営費交付金の積算対象となる教員として、若手教員の雇用を促進するため、リサーチプロフェッサー制度を活用し、40歳未満の優秀な若手教員の活躍の場を全学的に拡大する。</p>	<p>①          リサーチプロフェッサー制度を運用し、若手教員の雇用を促進する。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。          ・リサーチプロフェッサー制度（若手型）を活用した若手教員の採用          ・若手教員による研究活動の活性化</p>

中期 目標	【36】情報化の推進体制を強化する。
----------	--------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【36-1】</b> 情報戦略本部が策定する情報施策を着実に実施し、情報化の推進に係わる学内組織の連携・協働体制を充実・強化する。	① 平成 26 年度に点検・評価した情報施策の結果を基に、今後の情報基盤の展望・課題について取りまとめる。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・平成 26 年度の点検・評価結果を踏まえ、第 3 期以降に向けた「金沢大学 ICT 戦略について（提言）」の策定

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標  
 2 事務等の効率化・合理化に関する目標

中期目標	【37】 事務組織の機能・編成を見直し，効率化・合理化を推進する。
------	-----------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【37-1】            業務・運営に関する点検・評価を行うとともに，柔軟な組織編成及び人員配置並びに必要なに応じた業務の外部委託，北陸地域の国立大学法人間の連携を推進し，事務組織を一層活性化する。</p>	<p>①            事務組織の現状と教育研究組織の体制を見据え，業務・運営に関する検証を行うとともに，必要に応じた柔軟な組織編成及び人員配置を行う。</p>	IV	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務組織における業務・運営に関する現状，課題，今後の展望に係る調査・分析</li> <li>・大学改革に関する政策課題に対応した事務組織の改編，必要な人員の配置</li> <li>・他機関との事務連携協力体制の構築に係る検討組織の設置</li> </ul>
<p>【37-2】            事務データの一元化・情報化により事務情報システムを高度化し，業務の効率化・合理化を進める。</p>	<p>①            平成 26 年度の調査結果を踏まえ，事務情報システムにより効率的かつ合理的な運用整備を進める。</p>	III	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務情報システムの安定稼働に向けたバックアップデータからのリカバリーテストの実施</li> </ul>

III 財務内容の改善に関する目標  
 1 外部研究資金，寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

中期目標	【38】 外部資金及びその他の自己収入を安定的に確保する。
------	-------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【38-1】 インセンティブ制度等の充実により，外部研究資金獲得額を増加させる。	① 多様なインセンティブ制度を実施するとともに，これまでの外部研究資金獲得の成果を検証する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・ 科研費採択実績を基にした部局に対するインセンティブ制度の運用 ・ URA による外部研究資金獲得支援の有効性の検証
【38-2】 卒業生，民間企業等との連携を密にして，金沢大学基金を充実する。	① 広報活動等により金沢大学基金を充実する。	IV	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・ スーパーグローバル大学創成留学生支援キャンペーンの開始 ・ 「金沢大学カード」の導入
【38-3】 大学の保有する資産を活用して，自己収入を得る。	① 資産を活用し，自己収入を得るための方策を実施する。	IV	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・ 自己収入獲得のための資金運用等の実施 ・ コンビニエンスストアの設置に係る土地貸付の有料化
【38-4】 附属病院における薬品及び医療材料の使用について，正確に把握できるシステムを構築し，効率的な経営を進める。	① これまでに構築したシステムを活用し，効率的な経営を推進する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・ 患者別原価計算システムを使用した経営分析の実施

III 財務内容の改善に関する目標  
 2 経費の抑制に関する目標  
 (1) 人件費の削減

中期 目標	【39】 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」 (平成 18 年法律第 47 号) に基づき、平成 18 年度以降の 5 年間に において国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」 (平成 18 年 7 月 7 日閣議決定) に 基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。
----------	---

中期計画	27 年度 年度計画	評価結果	判断理由
【39-1】 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」 (平成 18 年法律第 47 号) に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成 18 年度からの 5 年間に において、△ 5 % 以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2006」 (平成 18 年 7 月 7 日閣議決定) に 基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成 23 年度まで継続する。	(平成 23 年度で終了した計画のため、平成 24 年度以降は年度計画なし)	-	-



III 財務内容の改善に関する目標  
 2 経費の抑制に関する目標  
 (2) 人件費以外の経費の削減

中期 目標	【40】業務運営の合理化・効率化により、経費縮減を推進する。
----------	--------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【40-1】 業務の見直し、節約及びリサイクルを徹底することにより、経費を抑制する。	① 廃棄物処理に要する経費を抑制するため、廃棄物のリサイクルを推進する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・分別によるリサイクルの推進
	② これまでの成果を踏まえ、引き続き経費抑制施策を実施する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・業務委託契約の仕様の見直し ・ペーパーレス会議の実施
【40-2】 「節約点検チーム」の活動を徹底し、経費節減を推進する。	① 経費節減に向けた取組を引き続き推進する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・節電に係る周知・徹底

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標  
 3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期 目標	【41】資産の有効利用を推進する。
----------	-------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【41-1】 教育・研究に支障のない範囲で、資産を効率的に運用する。	① 資産の有効活用を図る。特に、設備の共同利用を推進する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・設備共同利用推進総合システムの活用による研究設備の共同利用の推進
【41-2】 リサイクル活動を通して、物品を有効利用する。	① リサイクル掲示板による効果について検証する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・第2期中期目標期間におけるリサイクル掲示板への掲載及び再利用の状況に基づく分析

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
 1 評価の充実に関する目標

中期 目標	【42】 本学の教育理念・目標に照らして、教育研究等の状況に関する自己点検・評価を実施し、その評価結果を大学運営の改革・改善に活用する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【42-1】 評価データベースを整備し、教育及び研究、組織及び運営等に関する自己点検・評価を実施するとともに、評価結果を大学運営の改革・改善に生かすシステムを整備する。	① 評価データベースを活用し、自己点検評価を実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・「中期目標・中期計画進捗管理システム」を用いた年度計画等の実施状況に係る自己点検評価の実施

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標  
 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期 目標	【43】 情報提供に関する基本方針に基づき，大学情報の積極的な公開・提供及び広報を行う。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【43-1】</b> ホームページ等により，教育，学術研究及び会議等の情報を広く発信する。	① 広報戦略に基づき，本学 Web サイト，報道機関への情報提供等により，積極的に情報を発信する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・広報戦略に基づく，教育研究実施内容の本学 Web サイトへの掲載，報道機関へのプレスリリースによる積極的な情報公開
<b>【43-2】</b> 各研究域，がん進展制御研究所及び研究を主たる業務とするセンターは，研究活動をホームページ等で公表するとともに，研究活動報告会を定期的を開催することにより，研究成果を積極的に発信する。	① 研究成果を活用した国際シンポジウム，フォーラム等を実施する。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・海外機関との合同シンポジウムや共同利用・共同研究拠点シンポジウム等，種々の国際シンポジウム，フォーラム等の開催

V その他業務運営に関する重要目標  
1 施設設備の整備・活用等に関する目標

中期目標	【44】 教育，研究，診療の目標や経営戦略を踏まえた施設環境を構築する。
------	--------------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【44-1】 教育研究環境整備の目標と方針をまとめた「金大キャンパスマスタープラン 2010 版」を策定し，良好なキャンパスを形成する施設整備を実施し，学生支援・患者サービスの向上を推進する。キャンパスマスタープランは，大学改革と社会の変化に応じ，見直し改訂する。</p>	<p>① 「金沢大学キャンパスマスタープラン 2010」に基づき，施設整備を引き続き実施するとともに，平成 26 年度の見直し等を踏まえ，同プランを改訂する。</p>	IV	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスマスタープラン 2010 に基づく，耐震対策等の施設整備の実施</li> <li>・「キャンパスマスタープラン 2015」の策定</li> <li>・学生留学生宿舍「先魁」Ⅱ期整備事業に着手</li> </ul>
<p>【44-2】 施設の利用状況の点検・評価を行い，評価結果を活用することにより，施設の有効活用を行うとともに，施設の計画的な維持管理の着実な実施等の施設マネジメントを一層推進する。</p>	<p>① 施設の有効活用を推進するとともに，計画的に施設設備の安全確保と機能保全を推進する。</p>	III	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設等使用計画に基づく使用状況の確認</li> <li>・施設パトロールによる施設劣化度診断及びその状況等を踏まえた修繕の実施</li> </ul>
<p>【44-3】 附属図書館等棟施設整備事業(角間Ⅱ)及び総合研究棟改修施設整備等事業(宝町)について，PFI 事業として確実に推進する。</p>	<p>① PFI 事業として，附属図書館等棟施設整備事業(角間Ⅱ)及び総合研究棟改修施設整備等事業(宝町)における維持管理・運営を確実に推進する。</p>	III	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PFI 事業における維持管理，運營業務のモニタリングの実施</li> </ul>

<p>【44-4】 アクティブ・ラーニングに適した学修環境を整備する。</p>	<p>① アクティブ・ラーニングに適した学修環境を整備する。</p>	<p>IV</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・実習室，図書館等におけるアクティブ・ラーニングに適した学修環境の整備 ・アクティブ・ラーニング・アドバイザー制度の導入 ・上記の取組による教育効果の向上</p>
<p>【44-5】 大学の国際化に対応するため，日本人学生と外国人留学生との混住型宿舍建設等の環境整備を計画的に実施する。</p>	<p>① 学生留学生宿舍「先魁Ⅱ期（仮称）」整備事業に着手する。</p>	<p>III</p>	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・学生留学生宿舍「先魁」Ⅱ期整備事業の設計着手</p>

中期 目標	【45】環境問題への積極的な取組から、良好なキャンパス環境を形成する。
----------	-------------------------------------

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<p>【45-1】 金沢大学環境方針に従った環境基本計画に基づき、キャンパスの環境保全と改善に努め、適切な環境マネジメントを実施する。環境基本計画は、大学改革と社会の変化に応じて見直し改訂する。</p>	<p>① 平成 26 年度に一部改訂した環境基本計画に基づき、環境マネジメントを実施する。</p>	Ⅲ	<p>以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構成員の環境意識を向上させるための美化活動、エネルギー使用量の削減に向けた取組等、環境マネジメントの実施</li> </ul>

中期 目標	【46】 本学全体の情報基盤整備を戦略的・効率的に進めるとともに、情報セキュリティを強化することなどにより、安全・安心なキャンパスを実現する。
----------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【46-1】 中・長期の ICT インフラ整備及びキャンパス・インテリジェント化計画を策定し、情報セキュリティ対策の実効性ある運用を行い、教育・研究及び組織運営等に係る情報基盤を整備する。	① 平成 26 年度実施のキャンパスインテリジェント化個別事業実施計画の見直しを踏まえ、計画 6 年次の整備を行う。	IV	以下の取組を実施していることから「年度計画を上回って実施している」と判断する。 ・見直したキャンパスインテリジェント化個別事業実施計画に基づく、学生支援システム等のカスタマイズの実施 ・第Ⅱ期キャンパス・インテリジェント化実施事業報告書を作成
	② ICT インフラ整備年次計画に基づき、学内ネットワークの環境整備を行う。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・年次計画に基づくキャンパス間光回線の整備



V その他業務運営に関する重要目標  
 2 安全管理に関する目標

中期 目標	【47】 教育・研究の場にふさわしい，安全で快適な修学・就労環境を整備する。
----------	--

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
<b>【47-1】</b> 大学の特性を踏まえた安全管理・健康管理のための体制を整備するとともに，安全衛生教育その他の施策を推進する。	① 安全衛生マネジメント委員会を中心に，安全衛生に関する諸活動を行う。	III	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・安全衛生マネジメント委員会を中心とした，職場巡視等の安全衛生に関する活動の実施

V その他業務運営に関する重要目標  
3 法令遵守に関する目標

中期目標	【48】法令・指針の遵守について、教職員に周知するとともに、業務の適正を確保するためのコンプライアンス体制を整備する。
------	---

中期計画	27年度 年度計画	評価結果	判断理由
【48-1】 教職員に対し、法令・指針の遵守に関する研修及び説明会を実施するとともに、適正に経理等を管理・執行するため内部監査を毎年実施する。	① 法令遵守について、研修及び説明会を実施し、教職員への周知徹底を図る。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・ハラスメント防止研修会、コンプライアンスに係る個別事項に関する研修会等の実施
	② 内部監査及び科学研究費補助金等監査を実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・内部監査（会計監査）及び科学研究費補助金等に関する監査の実施
【48-2】 経理等の大学業務について、監査結果が改善に反映するシステムを構築し、適正な法人運営を推進する。	① 監査結果に対する改善報告の提出及び事後調査を実施する。	Ⅲ	以下の取組を実施していることから「年度計画を十分に実施している」と判断する。 ・監査結果に対する改善報告の提出及び改善状況等の事後調査の実施